

ひので映画大使最新版

[2016年3月24日]

第70回映画大使「僕だけがいない街」

- ・ 期日 平成28年3月19日(土曜日) ※公開初日！
- ・ 場所 イオンシネマ日の出

作品紹介

三部けい原作の大ヒットコミックを「ROOKIES -卒業-」「ツナグ」の平川雄一郎監督が実写映画化したミステリー・サスペンス。

主人公の悟には「カイジ 人生逆転ゲーム」「るろうに剣心 伝説の最期編」などの漫画の実写化作品をヒットに導いてきた藤原竜也が、彼が心を開ききっかけを作るヒロイン片桐愛梨を「ストロボ・エッジ」「映画 ビリギャル」が連続ヒットした有村架純が担当した。加えて及川光博、石田ゆり子らがキャスト陣に名を連ねている。

自分の意志に関係なく時間が巻き戻る“リバイバル”という不思議な現象に巻き込まれた主人公が、現在と過去を行き来しながら記憶を封印していた18年前の未解決事件と向き合い、事件の解明に挑むさまをスリリングに描き出す。



(C) 2016 映画「僕だけがいない街」製作委員会

映画大使の「感動と感想」をお伝えします。

このコーナーは、映画を見た感想や感動を、ストーリーは伏せて「みなさん」に紹介するコーナーです。

映画大使の「第一声！」

- ☆ 最後までめり込んで観ていました！
- ☆ 子役の方が凄いなと思いましたね！
- ☆ 自分の事と重なりました。
- ☆ とてもいい映画でしたね！



今回参加された、映画大使の皆さんです！

映画大使の「映画のツボ！」

Aさん

以前にも過去に戻るような作品を観たなと思いながら観ていたのですが、この作品は軸になるストーリーがあって完結しているなと思いました。

最近、藤原竜也さんを見かけていなかったのですが、このような映画に出ているのだと思いました。彼は若い頃からいろいろな役をされていましたが、彼を見守って来た私としては『幅広い役ができるようになったな』と思い、うれしく思いながら観ていましたね。

Bさん

内容はテンポも速く・濃くて・面白くて、凄いいなと思いました。

今仕事で自分史を書いていて、過去を振り返って生まれた頃の事から書いていて終わり頃になっているのですが、今回の作品は自分の事と重なって“同じような雰囲気だ”と思ってびっくりしましたね。このような事もあるのだなと思い、自分と共鳴したようで答えをもらったような感じがして、とても不思議な感じがしました。

Cさん

藤原竜也さんは追い詰められるような役が似合うなと思いながら観ていました。

今回の二人の子役もそうですが、子役が年々上手になっているな、大勢の中から優秀な人を選んでいるのかなと感じました。『演技をしているのかな』と思うくらい上手だなと思いましたね。

この作品は、自分がこうなるかなと思った方向には進みませんでした。先が読めない方が最後までどうなるのかと思いながら観ていられるのでいいのかなとも思います。

最後までめり込んで観ていましたね。もう終わってしまったのかと思うほどでした。

Dさん

内容が凄く面白くて見入ってしまいました。

とてもいい映画でしたね。

Eさん

小学生の『悟』役をした子の目が、キラキラ輝いていて凄く印象的でした。小学5・6年生の子は大人のような口ぶりもするけれどもまだ子どもで、本当に凄く可愛いなと思いながら観ていました。

Fさん

私も子役が凄いいなと思いました。目の輝きといい、私にも男の子の孫がいるので重なって、自分の孫を観ているようでした。このくらい賢ければ、自分の孫ももっと可愛いのかなあと思ってしまったくらい、小さい子の賢さは凄いい魅力だなと思いましたね。とにかく子役のシーンが素晴らしかったと思いました。

構成が面白く、楽しめましたね。

Gさん

私も子役演技には感動しましたが、それと同時に石田ゆり子さんが演じるお母さんの愛情の深さに感動しました。主人公の悟が、お母さんのために変わっていくところもよかったですね。

ラストシーンを観てタイトルの意味がわかったような感じがしました。

Hさん

私も子役が可愛かったと思いましたね。最近よく思うのですが、日本人は男性はあまり変わらないですが、子どもや女性はきれいになったなと思いますね。

Iさん

私も子役が凄いいなと思いました。演技がとても自然で演技しているように思えないなと感心しましたね。

作品の内容(印象に残ったシーンなど)

・原作との違いが気になりました。原作を読んでみたくなりましたね。

・藤原竜也さんが映画の中で黒縁のメガネをしていましたが、よく似合っていましたね。

・伏線がわかりやすく描かれていましたね。

・続編ができるのではないかなと思いました。

・映画は現実には出来ない事が映像になるので面白いですね。

まとめ

この作品の原作は「マンガ大賞」に2年連続のランクイン、マンガのランキングで1位を獲得するなど評価が高く、コミック既刊7巻の累計発行部数が254万部を突破しており、実写映画化権についても連載開始当初から50以上のオファーが殺到していたという経歴をもっています。さらに現在放映されているテレビアニメについても人気ランキングで1位を取っているというだけあり、どうしても期待が大きくなってしまいうなか、その期待を壊す事のない作品となっています。

内容は、次々と起こる出来事をスピーディーに描きながら、過去と現在を行き来する複雑な話をわかりやすく、伏線もあり、メッセージもしっかりと伝わってくるつくりとなっています。本当に時間を感じさせずあっという間に終わったという感じでした。

また、大使の皆さんからもお話が出ているとおり、子役の二人の演技が自然で素晴らしかったと思います。

映画は是非、劇場の大スクリーンをご覧ください！

映画大使では、年代も性別も違う方達が、それぞれ意見を出し合いひとつの映画について話し合うという、日ごろできない経験をすることが出来ます。映画を観て自分がこう思っただけではなく、年齢や経験などの違う人の目線で観たことを聞くことにより、違った発見があるので、ひとつの映画が何倍にも広がって行きます。

今後も「ひので映画大使」にご期待ください！！

関連ページ

- ・ [これまでのひので映画大使](#)
- ・ [ひので映画大使のトップに戻る](#)

お問い合わせ

東京都 日の出町 文化スポーツ課 社会教育係
電話: 042-597-0511(内線541) ファクス: 042-597-6698

ひので映画大使最新版への別ルート

[トップ](#) [新着情報](#)